５年 単元名「宿泊体験学習」（１６時間）

1　単元設定の理由

５年生では、これまで１年生から培ってきた海洋教育のねらい全てを踏襲した形で、１泊２日の宿泊学習に、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用するという海洋教育のめざすテーマを全て盛り込んだ内容を設定した。

2　単元目標

・共同生活での交流を通して、５年生としての自覚や責任感、社会性を育てる。
・野外活動を通して自然に親しみ、豊かな海の体験活動を行うことで、大月の自然のすばらしさを認識する。
・柏島地区の人々や、支援してくれる様々な方々との触れ合いを通し、コミュニケーション能力を育成する。また、柏島の歴史について調べ、社会科・人権学習との関連を図る。

3　単元の評価基準

【学習に関すること】
・様々な体験活動に興味・関心をもって取り組んでいるか。
・事前・事後学習に進んで取り組めているか。
・体験したことを、自分なりにまとめ発表出来たか。
・大月の海のすばらしさが実感できたか。
【自分自身に関すること】
・進んで作業や活動に参加できたか。
・決まりやルールを守って活動できたか。
【他者や社会とのかかわりに関すること】
・友達と関わり協力しながら学習できているか。
・関係者の皆さんとコミュニケーションを取り、感謝の気持ちをもって取り組めたか。

4　単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
3	・事前学習 ・黒潮実感センター長から、柏島の海の様子についてスライドを使って話を聞く。 ・その後、柏島について事前調べ学習を行う。（観光・漁業・歴史・その他）	・事前に、柏島につて調べておく。
6	【学習活動１】＜すりみのテンプラ作り＞ 〇地域の女性グループの皆さんから、大月の郷土料理である「すり身のてんぷら」作りを習う。 ・魚（地物のアジ）の頭を落とし、皮をはぎ作業を行う。 ・アジをミンチにかけ、すり身を作る。 ・油で揚げ、てんぷらを作る。（※このてんぷらは夕食となる。） 【学習活動２】＜シュノーケリング体験＞ 〇竜ヶ浜に移動し、２班に分かれてシュノーケリング、ビーチクリーン作戦を行う。 ・シュノーケリング班（インストラクターさんからシュ	・魚を嫌がらず、進んで作業を行う。 ・安全に気をつけて作業を行う。 ・インストラクターさんの指示に従い、安全に気をつけてシュノーケリングを楽しむ。 ・暑いので水分補強を十分に行

	ノーケリングの仕方を習う。） ・ビーチクリーン作戦班（黒潮生物研究所職員から、クイズ形式で漂流物やゴミを回収する。その後流れ物ビンゴを行う。 【学習活動３】＜夜の生物観察会＞ 〇2 班に分かれて、懐中電灯で水際にいる海の生き物観察会を行う。	う。 ・安全に気をつけてゴミ拾いを行う。 ・夜の活動なので、更に安全に気をつけて観察を行う。
6	【学習活動４】＜マグロの養殖見学・グラスボート見学＞ 〇2 班に分かれて、マグロのエサやりの様子を見学する。もう一方の班は、グラスボートに乗り、ダイビングスポットに移動し、サンゴや魚などを見る。 ・マグロのエサやり見学後は、養殖業者の方から、マグロ養殖の説明を受ける。 【学習活動５】＜大堂クルージング＞ 〇船 3 隻に分かれ、足摺・宇和海国立公園の一つである、大堂海岸を船に乗って海から見学する。 【学習活動６】＜活動の振り返り＞ 〇2 日間の成果と課題、発表に向けての資料作りを行う。	・マグロが餌を食べる様子を見学する。 ・マグロ養殖につて事前に調べたことを質問する。 ・海から見る大堂海岸の絶景を見る。（船の上での安全に気を付ける。） ・柏島の海のすばらしさをまとめる。
3	学習発表会で発表しよう！ ・アニメのいろは（ＤＶＤ10 分）を使って、大月の宝をテーマに子どもたちが調べたり、体験した大月の宝（自然・観光・食べ物・人など）と感じたものを学習発表会の場で発表した。	・テーマごとに班で分担し、協力して作業を進める。

外部連携 / 教材等

① 黒潮実感センター　神田　優　氏（体験活動のコーディネーター）
② 黒潮生物県有所　　中地　シュウ氏（シュノーケリング、夜の生物観察会他）
③ 柏島城下町グループ（学習活動１：郷土料理作り）
④ 大月ダイビング組合・パークボランティア（学習活動２：シュノーケリング）
⑤ 大洋エーアンドエフ（学習活動４：マグロの養殖）
⑥ 福留さん（親子）（学習活動５：大堂クルージング）
⑦ 大月町観光協会・大月町教育委員会（宿泊場所：竜ヶ浜キャンプ場）

※2 学期から、大月町地域支援協力隊の支援を受け、この 2 日間の宿泊体験学習の様子や、これまでの学習の振り返りを、アニメーションで紹介する、「アニメのいろは」を制作、12 月には地域の方々を招待し、アニメ上映会も行った。また 2 月の学習発表会でも、アニメ作品を流しながら、制作過程を発表することができた。

６年 単元名「海の中に森を作る活動」（１３時間）

1　単元設定の理由

６年生では、海を守り、海を利用するという視点に重点を置き、海の中に森を作る活動として、アオリイカの産卵床を設置して、アオリイカを増やすという取り組みを地域のダイバーさんたちと協働して継続している。近年、大月町の海でも海水温上昇の関係で磯やけが進み、磯際にも藻場がかなり少なくなってきている。その関係でアオリイカなどが卵を産む環境も変化してきた。そこで、黒潮実感センターやダイバーさん、森林組合などの支援を受け、山からスギやヒノキの間伐材を利用し、子どもたちがプレートを付け、海の中に人工的な森を作るという活動である。そのまま放置される間伐材を活用し、人工的な藻場を作ることで、アオリイカが卵を産み、育ったアオリイカは地元漁師さんの大事な収入源にもなるという狙いをもって、この単元を設定した。また、この機会に山・川・海のつながりについても合わせて学習を行う。

2　単元目標

・山・川・海のつながりについて理解する。
・自分たちも、大月町民の一人として、地域のために水産資源の増産に貢献しているという地域貢献に努力するという意識を育てる。
・大月のすばらしい海を守り育てるという意識を育てる。
・関係者の皆さんと協働して取り組むことのすばらしさを理解する。

3　単元の評価基準

【学習に関すること】
・山・川・海のつながりについて理解できたか。
・体験したことを、自分なりにまとめ発表出来たか。
・大月の海のすばらしさや、海を守ろうとする意識が育ったか。
【自分自身に関すること】
・安全に気をつけて進んで作業や活動に参加できたか。
・決まりやルールを守って活動できたか。
・海の中に森を作る活動の良さに気づくことができたか。
【他者や社会とのかかわりに関すること】
・友達と関わり協力しながら学習できているか。
・関係者の皆さんとコミュニケーションを取り、積極的に関わろうとする姿勢が見えたか。

4　単元の指導計画（全 13 時間）

時	学習活動	指導上の留意点
1	【学習活動１】２月 〇海の中に森を作る活動の事前学習を行う。 ・黒潮実感センター長の神田さんから、この活動のねらいや手順につて説明してもらう。 ・山・川・海のつながりについて話を聞く。	・海の中に森を作る意義について理解できているか。 ・これまでの海洋教育の取り組み等を思い出す。
1	【学習活動２】３月 〇間伐材に取り付けるプレート作りを行う。 ・一人ひとりが、木製のプレートに思い思いのデザインやコメントを入れ作成する。	・思いをこめて、丁寧にプレートを作製する。
2	【学習活動３】４月 〇海と森の学習 ・近くの山に出かけ、雑木林、植林された山の様子を観察し、そこの土を採ってきて、土の中にいる虫や微生物について観察する。	・光の当たり方や、山の形から木の成長具合、山の手入れ等についても理解する。 ・地中の虫や、微生物の役割について知る。

4	【学習活動４】4 月 〇アオリイカの産卵床設置 ・間伐材のいらない枝を落とし、自作のプレートを取り付ける。 ・間伐材を船に乗せ、水深 20～30mあたりの海底に間伐材を設置する。水中での設置作業はダイビング組合の皆さんが行う。	・友だちやダイバーさんと協働して作業を進める。 ・この活動がたくさんの方々の協力によってできることを理解する。
2	【学習活動５】9 月・10 月 〇アオリイカの産卵床モニタリング ・アオリイカの産卵は主に 4 月から 6 月に行われ、その様子をカメラやビデオに収め、子どもたちはその様子を見る。	・5 か月後の、海の中の森の様子や変化について知る。 ・産卵に来たアオリイカの様子、や海の中での行動について理解する。
3	【学習活動６】11 月～2 月 〇海の中に森を作る活動のまとめを行う。 ・班に分かれて、成果や課題、気づいたことなどをそれぞれの班で工夫してまとめ、学習発表会や参観日等で発表する。	・この活動の振り返りを行い、班ごとに工夫したまとめを行う。 ・参観日、学習発表会、また 5 年生などに自分たちの学習の成果を発表する。

外部連携 / 教材等

① 黒潮実感センター　神田　優さん
② ダイビング組合の皆さん
③ 森林組合
④ すくも湾漁協
⑤ 大月町教育委員会

６年 単元名「海の恵みを食べよう（カツオのたたき作り体験）」（３時間）

1　単元設定の理由

６年生は４月に海の中に森を作る活動を通して、海を守り、海を育てる態度を育成してきた。この、海の恵みを食べよう（カツオのたたき作り体験）では、食育を兼ねて高知県を代表する魚であるカツオを使ったタタキ作りに挑戦した。普段は魚など切った経験のない子どもたちに、もっと魚のすばらしさやおいしさを味わってもらいたいという思いから、この単元を設定した。

指導してくれるのは、すくも湾漁協女性部の皆さん、高知県漁連の職員さん等、普段から魚に関っている人たちに支援してもらった。

2　単元目標

・カツオのたたき作りに興味・関心をもって積極的に取り組む。
・自分たちで料理した魚のおいしさに気づく。
・指導者の方の注意を聞き、友だちと協力して作業する。

3　単元の評価基準

【学習に関すること】
・カツオの生態について理解できたか。
・タタキ作りの手順が理解できたか。
【自分自身に関すること】
・安全に気をつけて進んで作業や活動に参加できたか。
・決まりやルールを守って活動できたか。
・新鮮な魚のおいしさを味わうことができたか。
【他者や社会とのかかわりに関すること】
・友達と関わり協力しながら学習できているか。
・関係者の皆さんとコミュニケーションを取り、積極的に関わろうとする姿勢が見えたか。

4　単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
3	【学習活動１】 〇カツオの生態について説明を聞く。 ・高知県漁業普及所の職員から、カツオの生態や高知県のカツオ漁に関する話を聞く。 【学習活動２】 〇６班（４人～５人）に分かれて、カツオを３枚におろす。 ・女性部の先生方に教えてもらいながら、包丁や切り方を学ぶ。 〇おろしたカツオを、藁焼きにして、さっと氷水で占める。 〇さくになった、カツオをお刺身用に切り、大皿に盛り付け薬味をちらし、タレをかける。 〇楽しく会食する。	・カツオ漁の仕方や新しいカツオの見分け方など、クイズ形式でカツオについての知識を深める。 ・包丁など安全に気をつけて、魚をおろす作業を行う。 ・やけどをしないように安全に魚に火を通す。 ・見た目も美しく、美味しさが伝わるよう、盛り付ける。 ・支援して下さった方々へ、感謝の気持ちをもって、楽しく会食する。

外部連携 / 教材等
①　すくも湾漁協女性部　②高知県漁連　③高知県漁業指導普及所他